

中村会計だより

2013年 新年号

発行：1月1日（火）

編集：広報委員会



新年のご挨拶

「初心に戻り、一所懸命頑張ります。」・・・我々日本人にとって本当に名誉であり嬉しいニュースが昨年未伝えられました。これは京都大学教授の山中伸弥氏がノーベル医学生理学賞を受賞され挨拶の時のお言葉です。

新年あけましておめでとうございます。
旧年中はお客様、皆様より我々中村会計事務所へ一方ならぬご厚情を頂きありがとうございました。
本年も相変わらぬお付き合いを賜りますようお願い申し上げます。

国税庁発表の平成24年3月迄の1年間の法人260万社の黒字率は25.9%でした。我が事務所では、ほとんどのお客様企業の皆様が利益計画を立て、予実の差を見て検討し、対策を施しているからでしょうか、11月迄の移動平均で52.3%（純資産もプラスの企業）、純資産がマイナスで単年度黒字の企業を含めると62.9%に達しました。景気の厳しさはまだまだ続きそうですが、これは我々にとり嬉しいことです。

山中教授の「初心に戻り～」の初心、経営における初心とは何かを考えたとき、経営の神様と言われた松下幸之助翁に思いを馳せるのです。ジョン・P・コッター著『幸之助論』（ダイヤモンド社）にある「幸之助27歳の時、両親と8人兄弟の内、自分以外の人達全てを亡くし、その他いくつもの逆境をくぐり抜け、自分の夢を組織の夢に、さらに社会に奉仕する夢にまで高めていった。」

この松下翁に成功をもたらしたものは、「初心を生涯に渡り忘れず実践したことにある。」と言われます。それは、素直な心と謙虚な態度だといえます。

そこで、『素直な心になるために』（松下幸之助著PHP研究所）を読みました。

松下翁は常日頃から、くり返し、素直な心について話し、その大切さについて述べているわけですが、改めて素直な心とは何か、またどうすれば素直な心になれるのかをまとめてみました。

幸之助翁は、素直な心とは、私心なくくもりのない心で1つのことにとらわれず、物事をあるがままに見ようとする心で、そういう心から物事の実相をつかみ、真理をつかむ働きがあり、それに適応していく心だといえます。

素直な心になる為にはまず素直な心の内容を確認することが大切だといいい内容を10ヶ条にまとめておられます。それは、

1. 私心にとらわれない。

「私利私欲」の奴隷になってはならないということで、私心にとらわれて物事を考え事を行うということになると好ましくあらざる姿がおこって来る。

2. 耳を傾ける。

謙虚な心で衆知に耳を傾けるということは、いつの時代、どんな場合でも非常に大切なことである。

3 . 寛容。

素直な心になれば万物万人いっさいのそれぞれの良さというか、意義というか、価値、長所そういったものが明らかになるわけ、この世に全く無用なもの、排除すべきものは何もないことが分かる。

4 . 実相が見える。

美しく磨き上げられた無色透明なガラスをとおせば物がありのままに見えてくる。素直な心になったならば物事の本当の姿、実相がはっきり見えるようになるのです。

5 . 道理を知る。

素直な心というものは、広い視野から物事を見、その道理を知ることのできる心である。

6 . すべてに学ぶ心。

他の人々と日常ふつうの会話を交わしている際でも、学ぶ心というものを保っていたとするならば相手のふとした言葉の中からハッと学ばせられるようなものを見つけ出す。

7 . 融通無碍。

素直な心というものは、物事に対して臨機応変、自由自在に取り組むことのできる心で、いつどのような物事に出くわそうとも必要以上に驚き慌てることなく常に正々堂々と物事に対処し、そこにより良き成果を生み出す。

8 . 平常心。

素直な心というものは、どのような物事に対しても平静に、冷静に対処してゆくことのできる心である。

9 . 価値を知る。

素直な心というものは、良いものは良いものと認識し、価値あるものはその価値を正しく認めなければなりません。そうしてこそ、人も物もいっさいのものが生かされてより良い共同生活がもたらされてくる。

10 . 広い愛の心。

もともと本来人間は互いに心を結びあって大切にしあい生かしあい、許しあい助け合って生きてゆこうとする、広い愛の心、慈悲の心を持っているのです。

松下翁は、今後お互いに素直な心を正しくつかんで、その心を養い高め、そこから政治を考え、経済を考え社会生活、共同生活の全般を考えるとこのようにしてゆく事が大切だといわれます。

リーマンショックから4年、今回の不況もやっと明るさが見え、好況時より良い業績を上げるお客様も出てきました。まだ屈む月(厳しい月)もあり、決して安心出来ませんが、松下翁の素直な心の実践で遅く生き抜いていきましょう。

我が中村会計が全員全力で応援させていただきます。



中村利明